

石清水祭次第

9月14日

18時

外殿渡御祭(げでんときよさい)

御本殿の門扉を全て閉ざし、三座の御神霊を奥の神座(内殿)から前の神座(外殿)にお遷しする秘儀。

9月15日

2時

神幸の儀 宮司以下参進

3時頃

御鳳輦発御(ごほうれんはつぎょ)

八幡大神様を乗せた三基の御鳳輦(御神霊の乗り物/神輿の原型)を中心に約500名の神職・楽人、また神人(じにん)呼ばれるとお供の行列が松明や提灯の灯りだけを頼りに山上の御本殿から山麓の頓宮へと向います。



同刻

上卿(しょうけい)以下参進[頓宮齋館]

山上の行列が出発する頃、上卿(勅使)は参議(さんぎ)以下の供奉員(ぐぶいん)を率いて頓宮齋館を出発、一ノ鳥居を経て祓幄(はらいあく)に入り、厳重な修祓(中臣祓という特別な祝詞を奉読して行う祓いの儀)を受けた後、礼堂(らいどう)に入ります。

上卿「式(しき)」を閲読[礼堂]

御鳳輦の到着を待つ間、上卿は外記(げき)が進める「式」(祭典の内容を記した巻物)を読んで式次第を確認します。

3時40分頃

絹屋殿著御の儀(きぬやでんちゃくぎよのぎ)

行列が絹屋殿(4本の掘立柱に支えられた臨時の建物、四方に白絹を張り廻らしている)に到着すると里神楽奉奏・神職拝礼・太平楽奉奏があり、手水を了えた勅使以下が御神霊を奉迎します。これ以後を官祭と称して夕刻の奉送まで公の祭儀とみなされます。

なお石清水祭が兩儀となった場合は、この絹屋殿著御の儀が省略されます。



4時15分頃

頓宮神幸の儀(とんぐうしんこうのぎ)

上卿以下が頓宮舞台西側に列立する中[この整列の姿が渡り鳥の飛ぶ様に似ていることから雁列(がんれつ)と呼ばれている]、三基の御鳳輦が著御。神宝御剣が殿内に移されたのち入御されます。

御鳳輦頓宮殿に入御



奉幣の儀(ほうべいのぎ)

修祓

上卿以下著座

内蔵寮の史生著床(くらりょうのししょうちゃくしょう)

御幣物(ごへいもつ／天皇陛下の御奉納品)を納めた唐櫃(からひつ)が2名の白丁(はくちょう)に奉舁(ほうよ)されて斎庭に参進、その後から内蔵寮史生(くらりょうのししょう)が続きます。

奉簾(けんれん)

2名の神職が御神前の御簾(みす)を巻き上げます。いわゆる御開扉に相当します。

献饌(けんせん)

御神饌を献ります。本祭の神饌は当宮に古来伝承されてきた特殊神饌で、御飯(おんいい)・焼鳥・兎餅(ぶと)などの熟饌(じゆくせん／火を通したものと)と鮭・葡萄・茄子等の生饌(せいせん／火を通さないもの)と供花(きょうか)の3種に大別されます。各々古規に従って切り揃えられ、盛り方にも定めがあり、それらの中には、鶏冠菜(とさかのり)・三島海苔(みしまのり)・海松(みる)・山葵(わさび)・河骨(こうぼね)・榎実(かやのみ)・金海鼠(きんこ)など珍しい品々も含まれています。有名な供花は、四季を表した和紙造りの伝統工芸品(毎年新調される)で、古来は皇室からの特別なお供えでした。



宮司祝詞奏上

奉幣

上卿が舞台上で見守る中、内蔵寮史生より宮司に手渡された三座分の御幣物が御神前に奉獻されます。なお上卿が舞台に著座したのち左手で裾(きよ)を引き寄せる動作は、平安朝の殿上作法を今日に伝えたものとして注目に値します。



上卿御祭文奏上

国家の繁栄・国民の安泰・世界平和を願われる天皇陛下の御祭文(ごさいもん)が微音(びおん)にて奏上され、次いで宮司によって御神前に納められます。この時、上卿と宮司が行う返祝詞(かえしのつと／合拍手)は極めて稀な作法で、また上卿が御祭文奏上の前後に行う所作は起拝(きはい)という最も鄭重な拝礼です。なお、本祭に用いられる御祭文の料紙は古来黄色の鳥子紙(とりのこがみ)と定められており、伊勢の神宮の縹(はなだ)、上下賀茂社の紅、春日大社の黄と共に格別の思召(おぼしめし)が拝されます。



御馬牽廻(おんうまけんかい)

昔、宮中の左右馬寮(めりょう)から各1頭ずつ毎年奉納された姿が再現され、2頭の神馬が御神前を3周します。



勅樂奉奏(ちよくがくほうそう)

第112代靈元天皇が雅樂器(鳳笙(ほうしょう)・箏(しちりき)・龍笛(りゅうてき)・太鼓・鉦鼓(しょうこ)を奉納された故事に因み、その中の三管を樂人に授け、颯踏(さつとう)・賀殿急(かてんのきゅう)・蘭陵王(らんりょうおう)・長慶子(ちやうけいし)の4曲を奉奏します。



撤饌(てっせん) 垂簾(すいれん)

高良社に朝御饌(あさみけ)奉献

地元・八幡の産土神として鎮座する当宮摂社・高良神社に朝御饌をお供えます。なお夕方の還幸の儀では祭典前に夕御饌が供されます。



8時頃

放生(ほうじょう)行事

宇佐宮の放生会に倣って貞観5年に始まるといわれます。「最勝王経・長者子流水品」に因んで生類の殺生を慎み、捕らわれた魚鳥を山川に解き放つ善行が尊ばれて多くの人々が奉仕します。なお、放生川に架かる安居橋(あんごばし/通称・太鼓橋)においては、胡蝶の舞が奉納されます。

修祓

放魚・放鳥(大祓詞奉唱)



「胡蝶の舞」奉納

参列者放魚・放鳥(大祓詞奉唱)



10時

舞樂奉納

13時

演武奉納

16時30分

高良社に夕御饌(ゆうみけ)奉献

修祓

17時

還幸の儀(かんこうのぎ)

上卿以下著座

奉簾(けんれん)

献饌(けんせん)

宮司祝詞奏上

参列者代表拝礼

撤饌(てっせん)

上卿「見参(げざん)」を被見

外記(げき)が文杖(ふじょう)に挟んだ見参(げざん)[神祿を受ける者の名簿。現在「神祿を賜う儀」は廃絶している]を上卿に進めます。

垂簾(すいれん)

神宝御剣(しんぼうぎょけん)授受

上卿以下列立(雁列)



18時30分頃

御鳳輦発御(ごほうれんはつぎよ)



20時頃

御鳳輦御本殿に著御(ちやくぎよ)

9月16日

後朝祭(こうちょうさい)

諸儀が無事斎行されたことを報謝します。